

景気状況調査結果

(第58回)

令和6年10月

一般社団法人 東京実業連合会

実連景況調査結果(第58回)

(令和6年度上半期実績、令和6年度下半期見通し)

調査時点：令和6年10月

調査対象：東京実業連合会 会員企業 291社

有効回答数：93社（回答率31.9%）

業種内訳：製造業13社 卸売業52社 小売業 8社

サービス業10社 その他10社

※小売業とサービス業は回答数が少ないため、合算した数値を示しています。「その他」の業種の記載は省略します。

調査項目：1. 業況判断 2. 売上状況 3. 在庫状況

4. 価格動向 5. 利益水準 6. 資金繰り

7. 借入状況 8. 雇用状況

9. 設備投資実施状況 10. 金融機関貸出態度

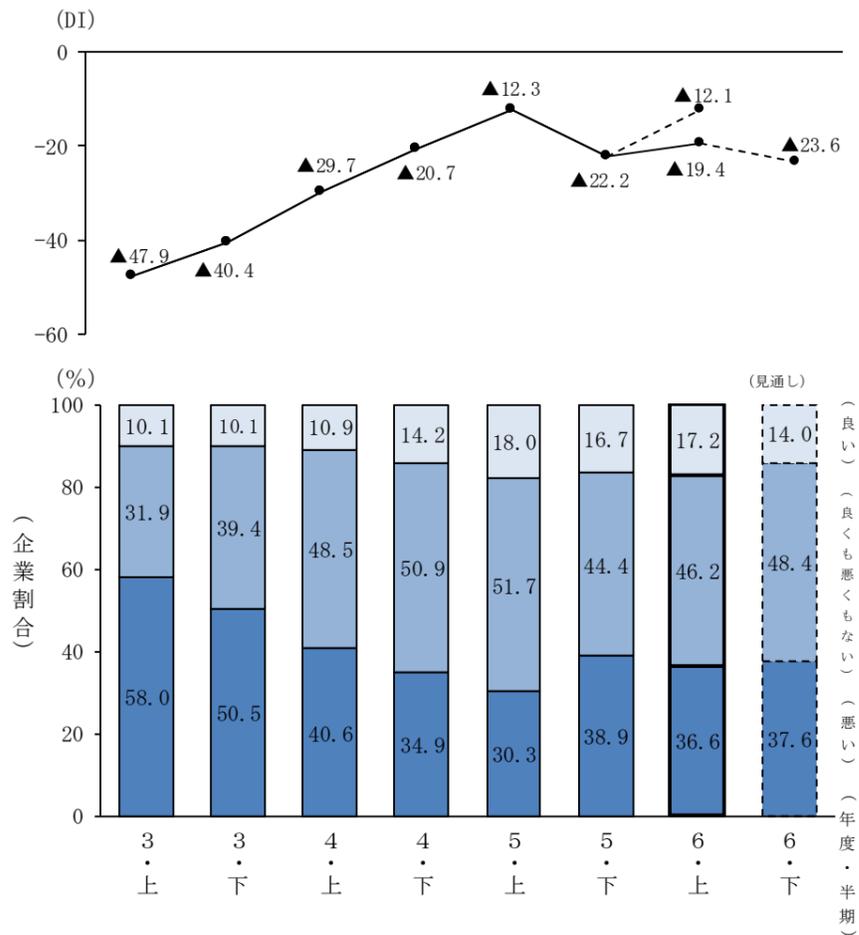
今回の調査では、6年度上半期（6年4月～9月）の実績、6年度下半期（6年10月～7年3月）の見通しを伺いました。

今期（6年度上半期）の業況判断D I（業況が「良い」企業割合－「悪い」企業割合）は前期からわずかに上昇しましたが、前期に予測した今期の見通しを達成することはできませんでした。

その背景は、第1にはコロナ禍からの売上の回復が一服したことがあげられます。今期の売上D Iは前期の実績値、今期の予測値を大幅に下回りました。第2は、円安基調に変化が見られたものの原材料などの高まりに伴う仕入価格の上昇が持続していることです。第3は、人手不足が業績向上の制約になっている企業が存在することです。人手不足感は前期と比べて一服していますが、人手が不足していることによって業績が悪い企業が一部に見受けられます。来期（6年度下半期）の業況判断はおおむね横ばいとなる見込みですが、景気の変調に留意した経営を行う必要があるようです。

1. 業況判断

図-1 業況判断
①全業種計

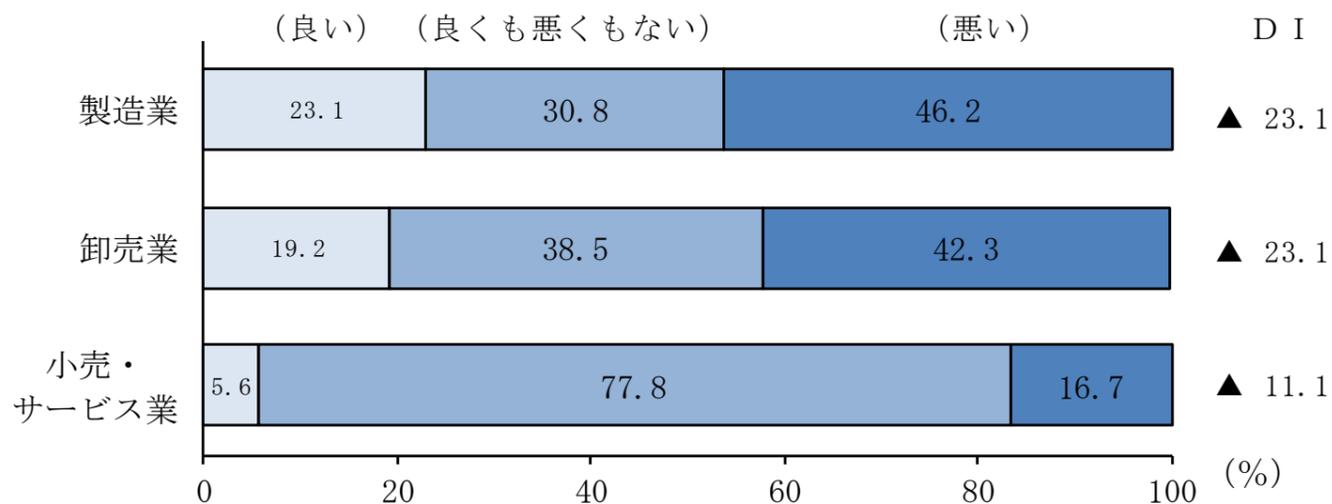


今期（6年度上半期＝6年4月～9月）の業況判断D I（業況が「良い」企業割合－「悪い」企業割合）は▲19.4と、前期の実績（▲22.2）をわずかに上回りましたが、おおむね横ばい圏でした。また、前期に予測した今期のD I（▲12.1）は達成できませんでした。円安基調に変化が見られたものの原材料などコスト上昇の負担は依然として重いことに加え、人手不足が業績向上の制約となっていることが、業況感改善の重しとなっています。

業況判断D Iを業種別に見ると、製造業、卸売業がともに▲23.1と低水準です。

来期の業況判断D Iは▲23.6と、前期並みの水準へと低下する見通しです。

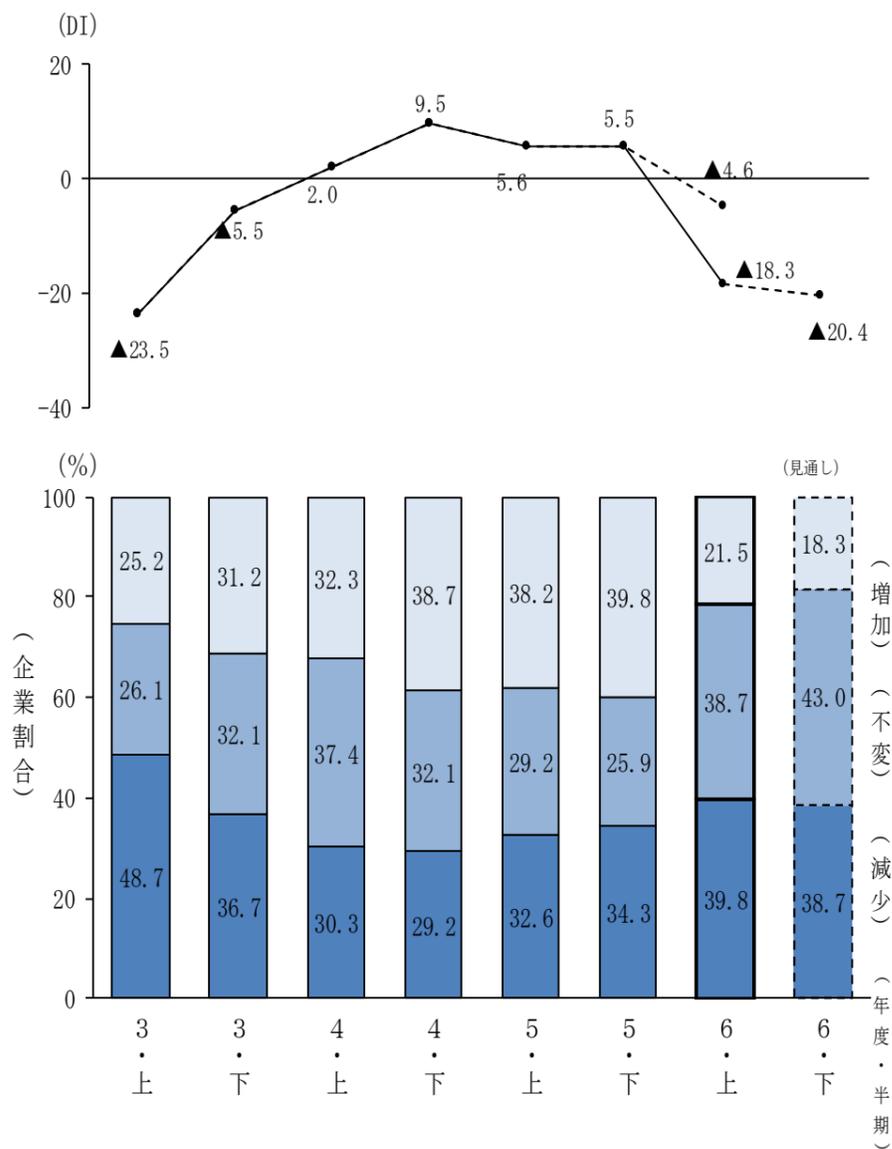
②業種別(6年度上半期)



(注) DIは「良い」企業割合－「悪い」企業割合

2.売上状況

図-2 売上状況(前年同期比)
①全業種計

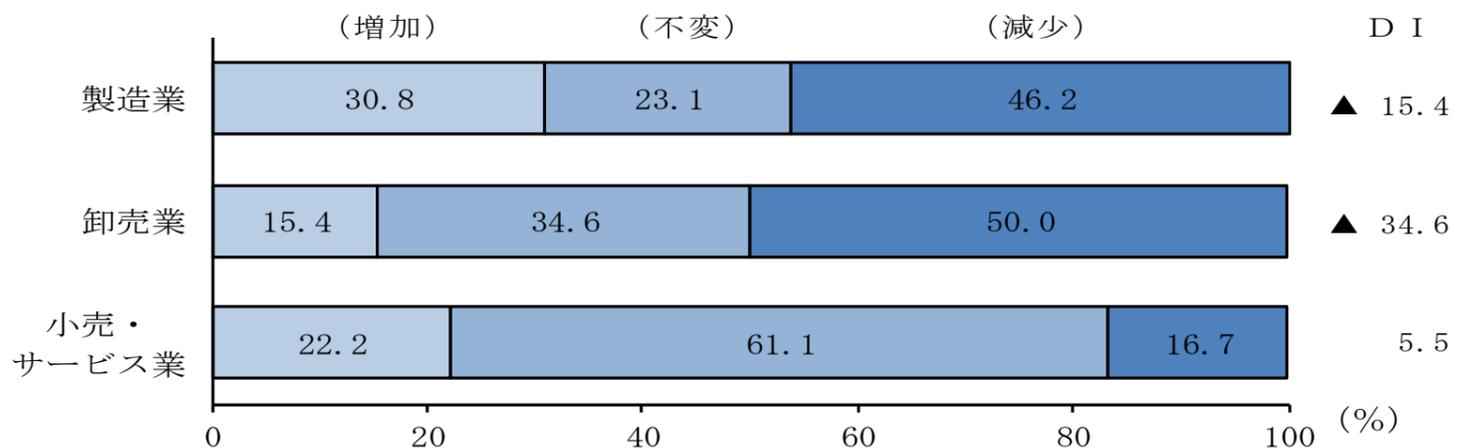


売上D I（前年同期と比べて売上が「増加」企業割合－「減少」企業割合）は▲18.3となり、前期（5.5）から大きく低下し、5 半期ぶりにマイナスに転じました。また、前期に予測した今期のD I（▲4.6）も大きく下回りました。売上「増加」企業割合（21.5%）が前期（39.8%）から大幅に低下したことがD I悪化の主要因です。コロナ禍からの売上の回復が一服したことを物語っています。

売上D Iを業種別に見ると、卸売業は売上「減少」企業割合が50.0%にのぼり、売上D Iは前期（▲10.3）から▲34.6へと大きく低下しました。

来期の売上D Iは▲20.4と、今期と同水準になる見通しです。

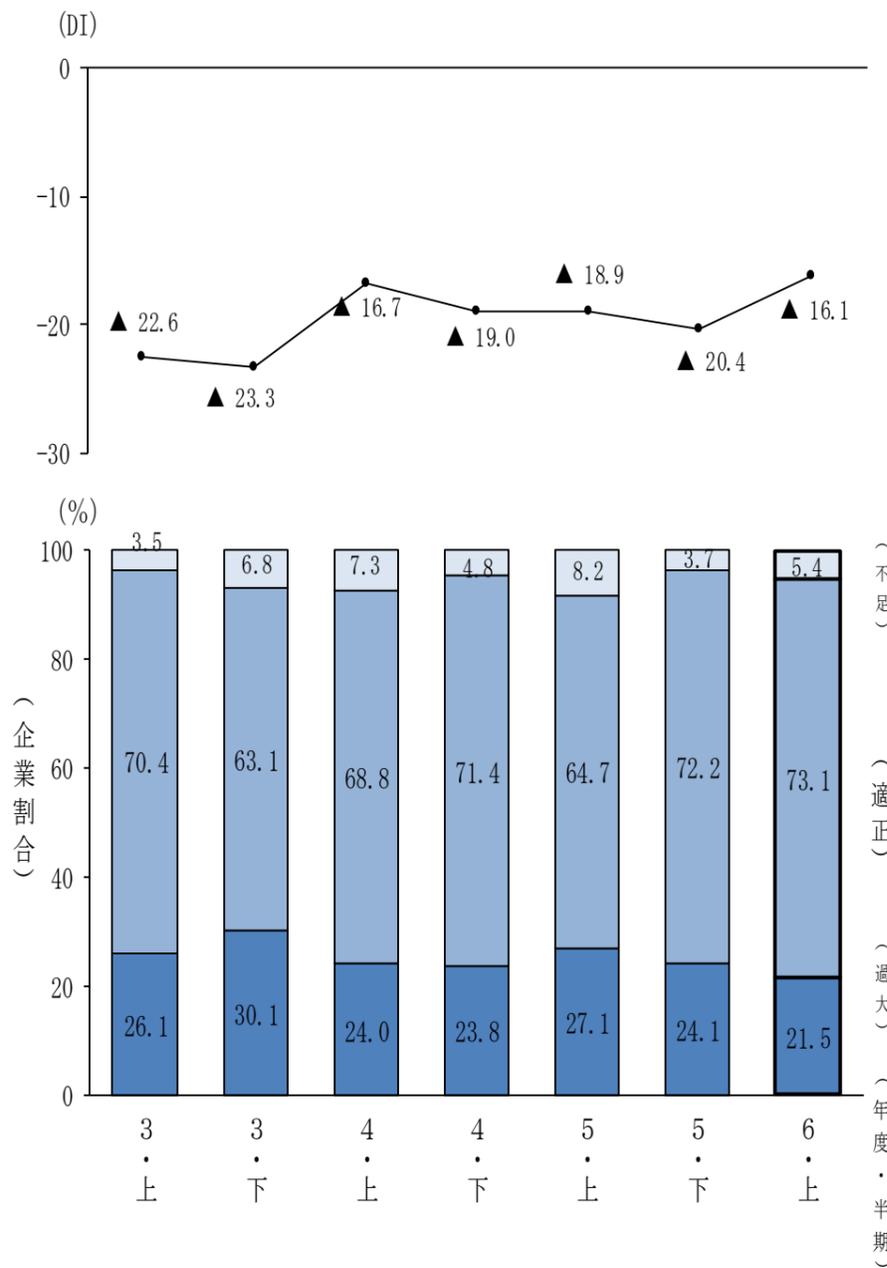
②業種別(6年度上半期)



(注) D Iは「増加」企業割合－「減少」企業割合

3.在庫状況

図-3 在庫状況
①全業種計

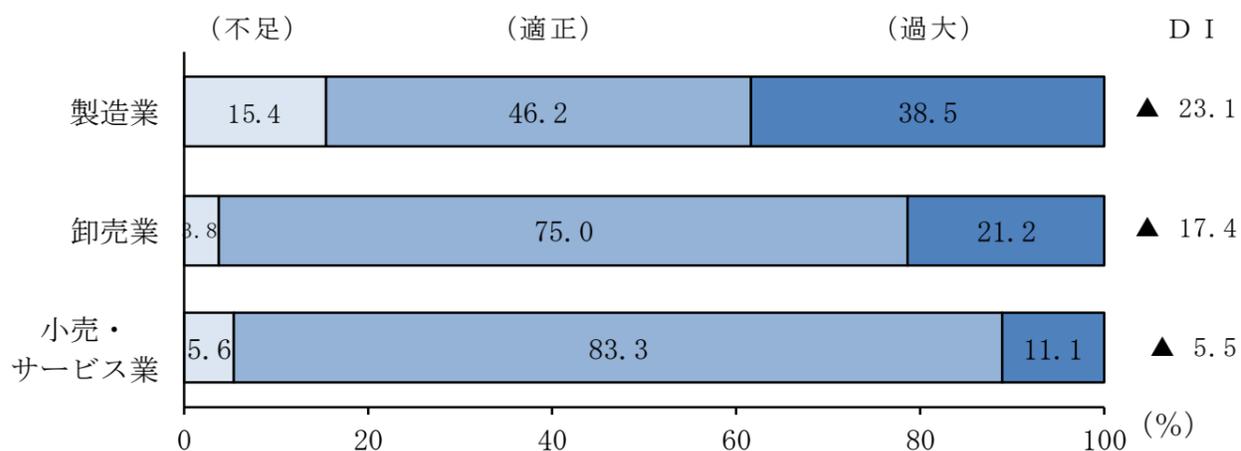


在庫は、「不足」とする企業割合が5.4%、「適正」が73.1%、「過大」が21.5%で、在庫DI（「不足」企業割合－「過大」企業割合）は▲16.1となりました。在庫DIは前期からやや好転しました。在庫DIは前期からやや好転しました。「適正」企業割合は前期より上昇し、過去2番目の高い水準です。

売上DIが予測よりも低下したにもかかわらず、「適正」企業割合が高水準であったことから、多くの企業が売上にきめ細かく対応した仕入れを行うなど、在庫を適正に管理できたものと思われます。

在庫DIを業種別に見ると、売上DIが低水準であった卸売業では▲17.4と前期（▲24.1）よりも上昇しており、在庫管理が適正であったことがうかがえます。

②業種別(6年度上半期)

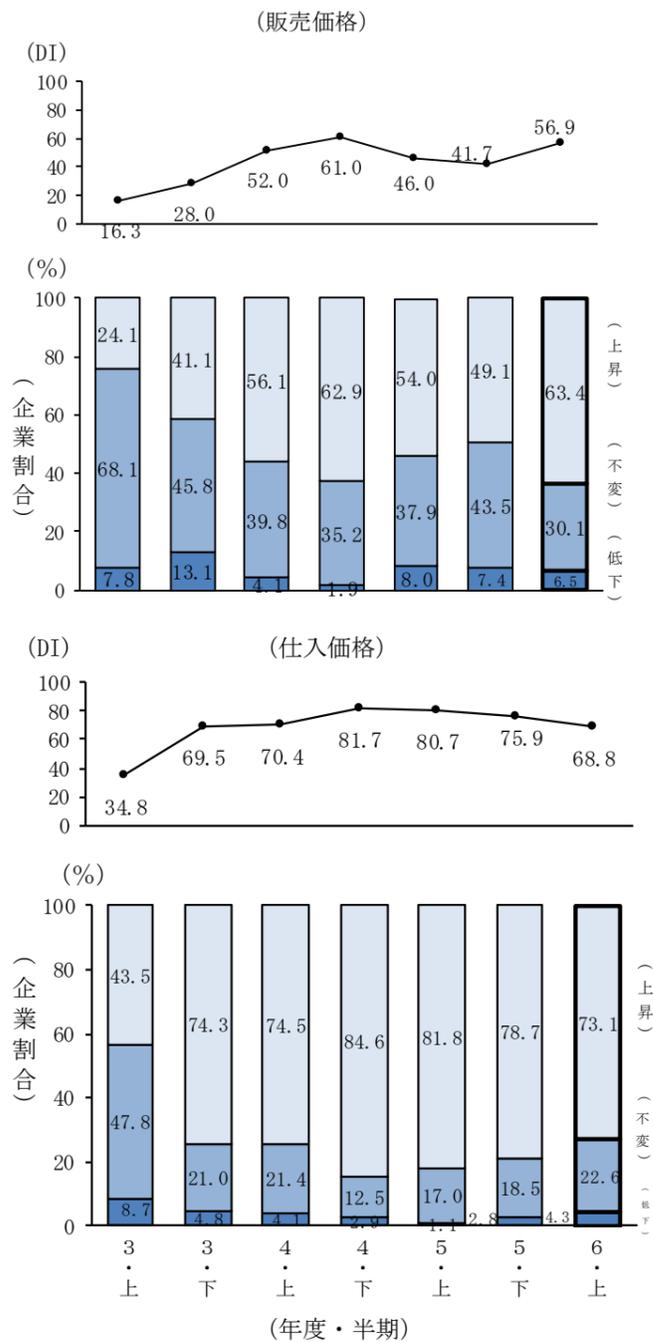


(注) DIは「不足」企業割合－「過大」企業割合

4. 価格動向

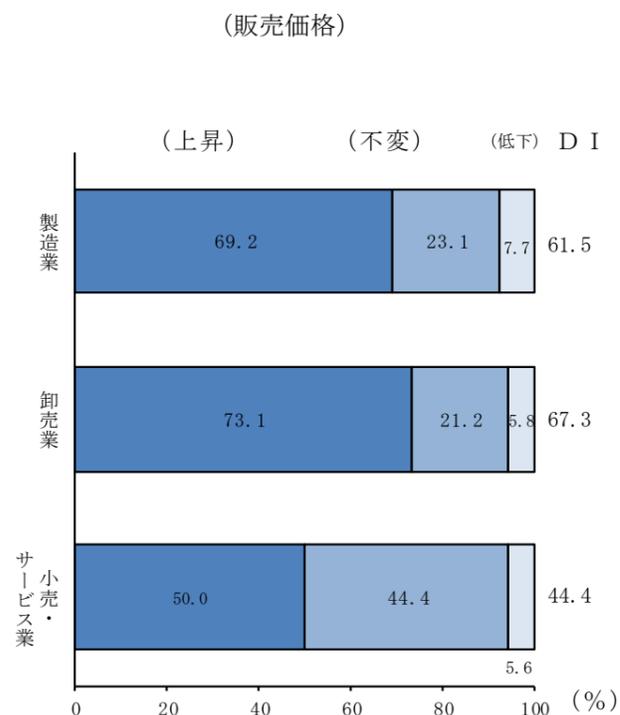
図-4 価格動向(前年同期比)

①全業種計



(注) DIは「上昇」企業割合-「低下」企業割合

②業種別(6年度上半期)



今期の仕入価格DI(「上昇」企業割合-

「低下」企業割合)は68.8と、前期(75.9)

から低下したものの高水準です。円安基調

に変化が見られるようになったものの、原

材料や賃金などのコスト上昇により、仕入

価格の上昇圧力は依然として持続していま

す。一方、販売価格DIは56.9となり、前

期(41.7)から大幅に上昇しました。仕入

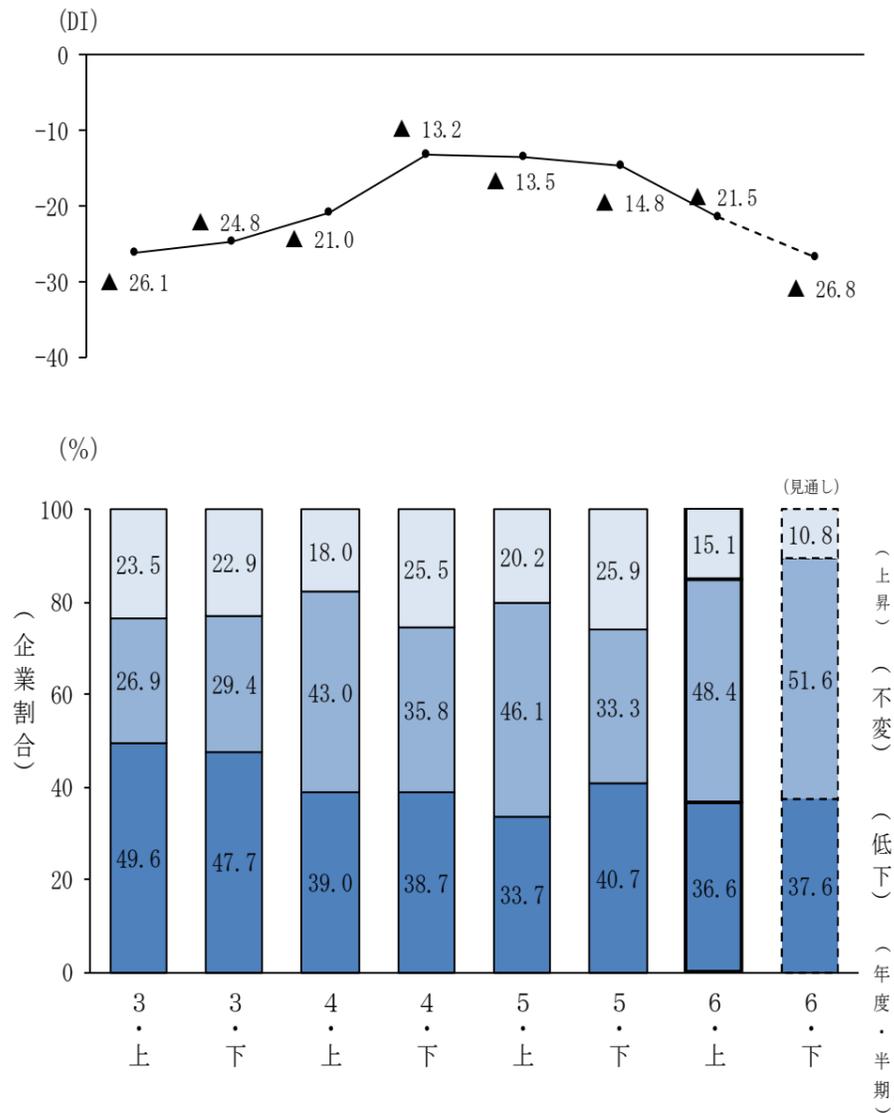
価格の上昇を販売価格に転嫁できない企業

(仕入価格が「上昇」しているにもかかわらず、販売価格が「不変」「低下」である企業)の割合は、回答企業全体に対して14.0%であり、前期(29.6%)から低下しました。仕入価格の上昇に伴う販売価格への転嫁が徐々に進行しているものと思われます。

5.利益水準

図-5 利益水準(前年同期比)

①全業種計



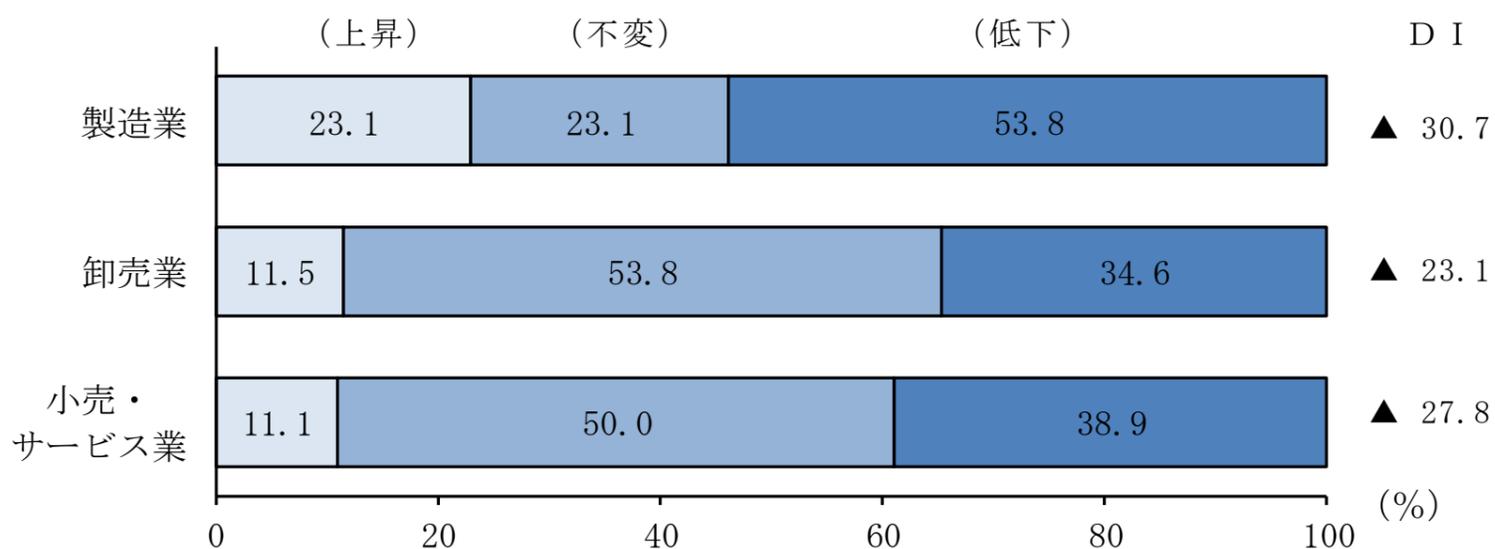
今期の利益D I (今期の利益水準が前年同期と比べて「上昇」した企業割合－「低下」した企業割合)は▲21.5となり、前期(▲14.8)から低下しました。

利益D Iは売上D Iと連動した動きを示しており、今期の利益D Iの低下はコロナ禍からの売上の回復が一服したことが大きな要因です。ただし、仕入価格などの上昇が利益水準を圧迫している企業も少なくないと思われます。

利益D Iを業種別に見ると、製造業が▲30.7と最も低いものの、卸売業は▲23.1、小売・サービス業は▲27.8であり、業種間格差は大きくありません。

来期の利益D Iは▲26.8とさらに低下する見通しです。

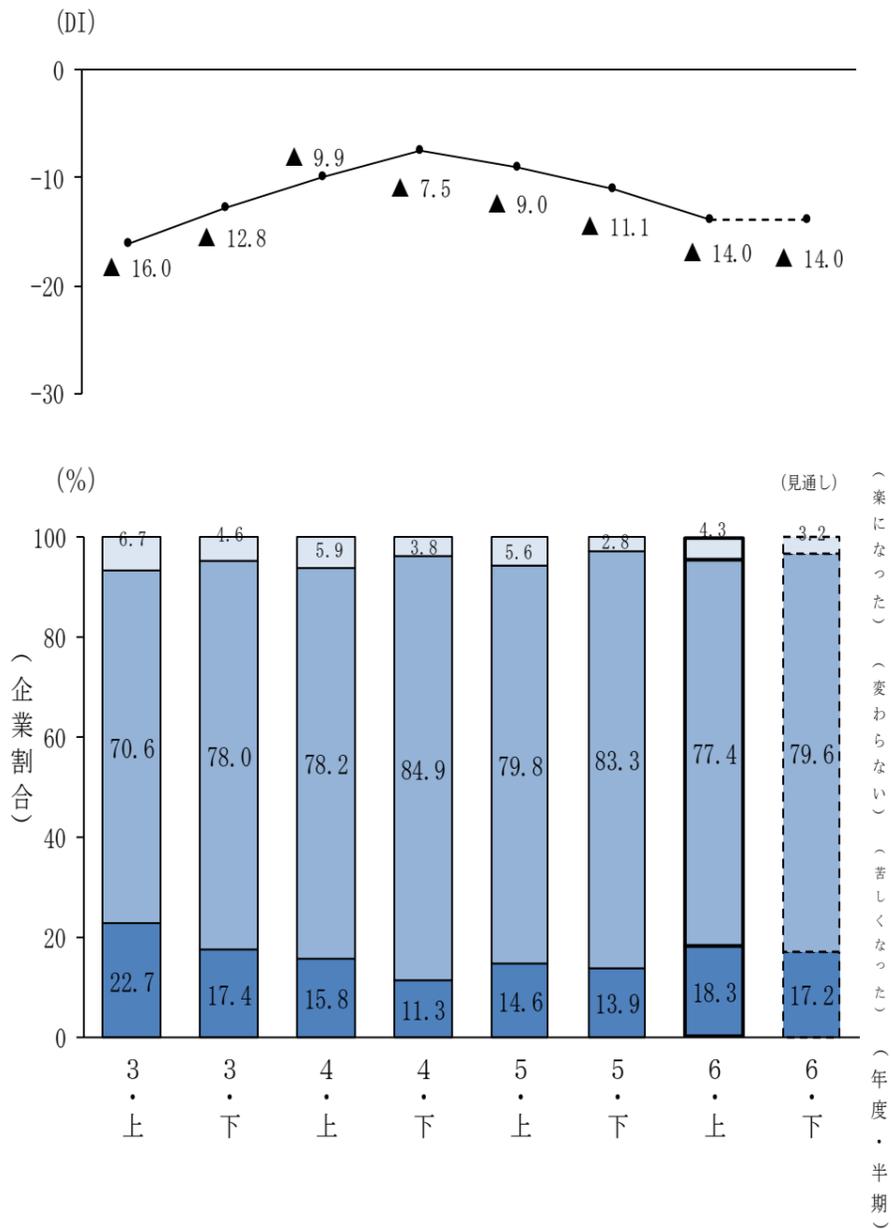
②業種別(6年度上半期)



(注) D Iは「上昇」企業割合－「低下」企業割合

6.資金繰り

図-6 資金繰り(前年同期比)
①全業種計

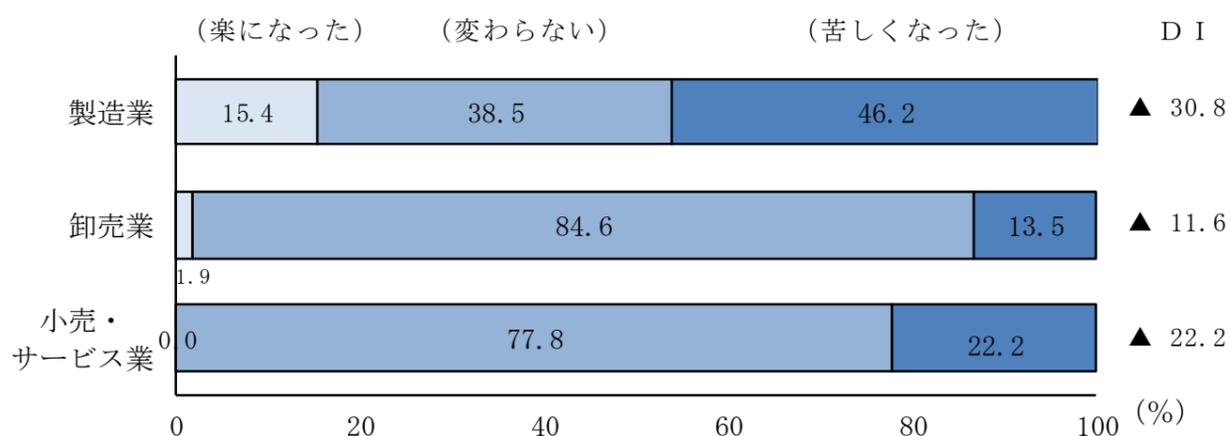


今期の資金繰りD I（今期の資金繰りが前年同期と比べて「楽になった」企業割合－「苦しくなった」企業割合）は▲14.0と、前期（▲11.1）からわずかに低下しました。小幅ながらも3半期連続の低下です。ゼロゼロ融資の返済が本格化していることなどによって、資金繰りには緩やかながらも下押し圧力がかかっていると思われます。

資金繰りD Iを業種別に見ると、卸売業（前期▲13.8→今期▲11.6）は前期と同水準であるのに対して、製造業（同▲16.6→▲30.8）、小売・サービス業（同0.0→▲22.2）は低下しています。

来期の資金繰りD Iは、今期と同じ▲14.0になる見通しです。

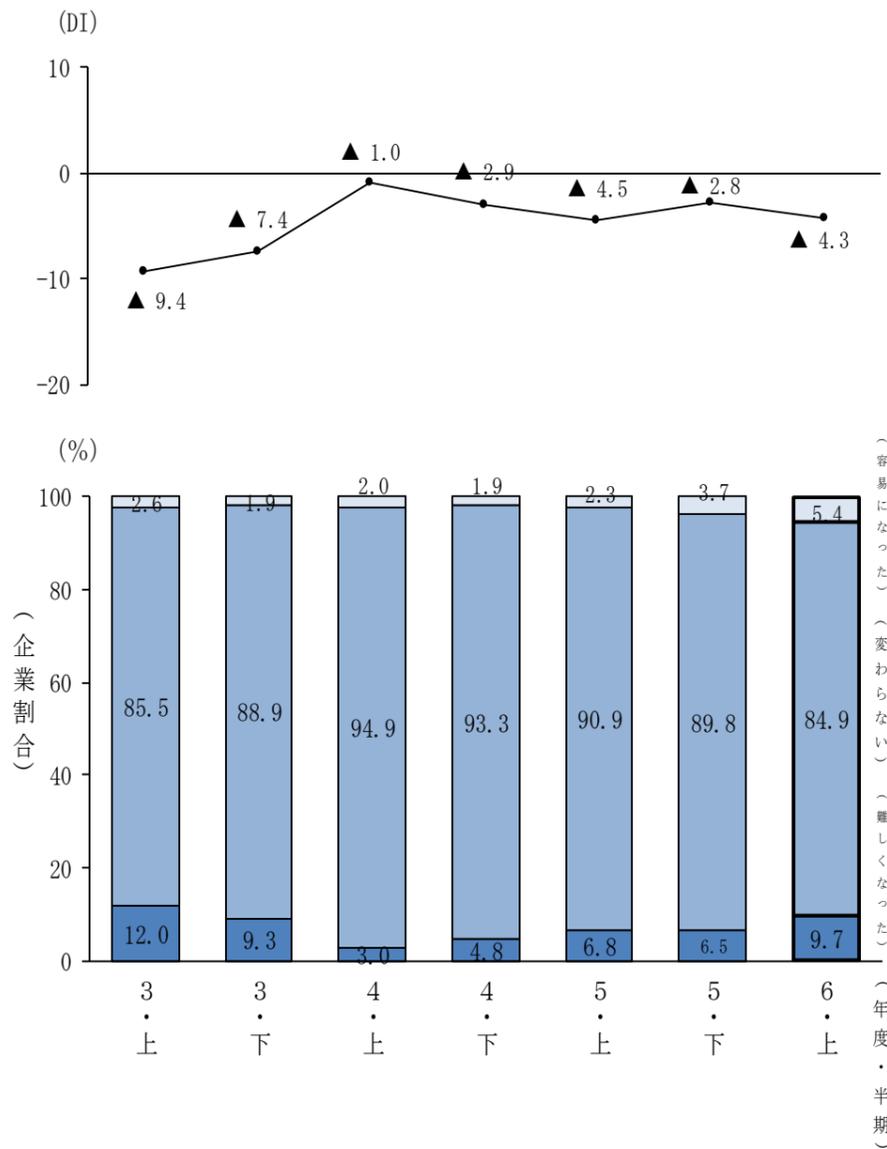
②業種別(6年度上半期)



(注) D Iは「楽になった」企業割合－「苦しくなった」企業割合

7.借入状況

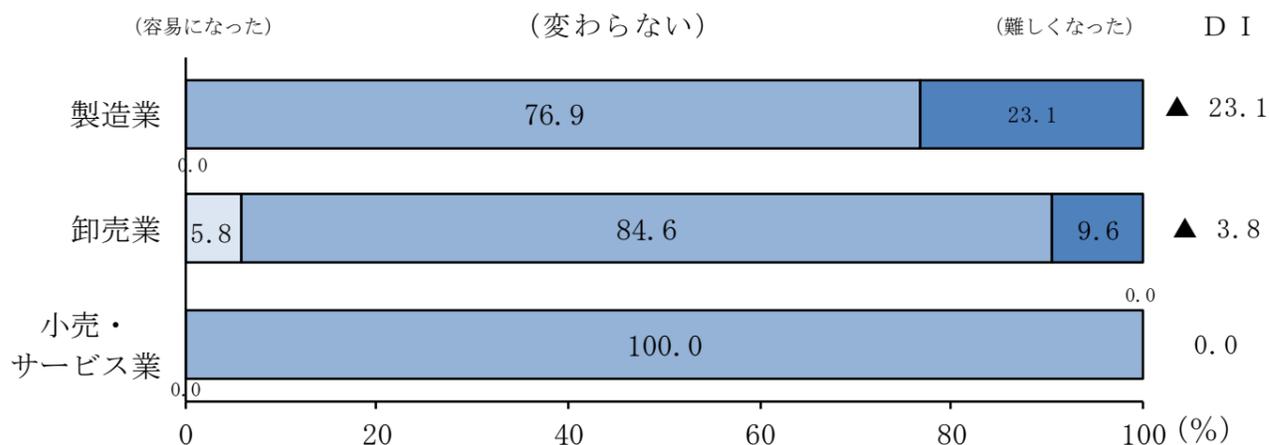
図-7 借入状況(前年同期比)
①全業種計



今期の借入D I（金融機関からの借入が前年同期と比べて「容易になった」企業割合－「難しくなった」企業割合）は▲4.3となり、前期（▲2.8）とほぼ同水準となりました。借入D Iは5半期連続で同水準圏内を上がったたり下がったりしています。

借入状況は、これまでのところ大きな変動は見られません。しかしながら、日本銀行がマイナス金利を解除したことによって借入金利に底入れの兆しがあるように見えており、今後の借入状況を注視する必要があると思われます。

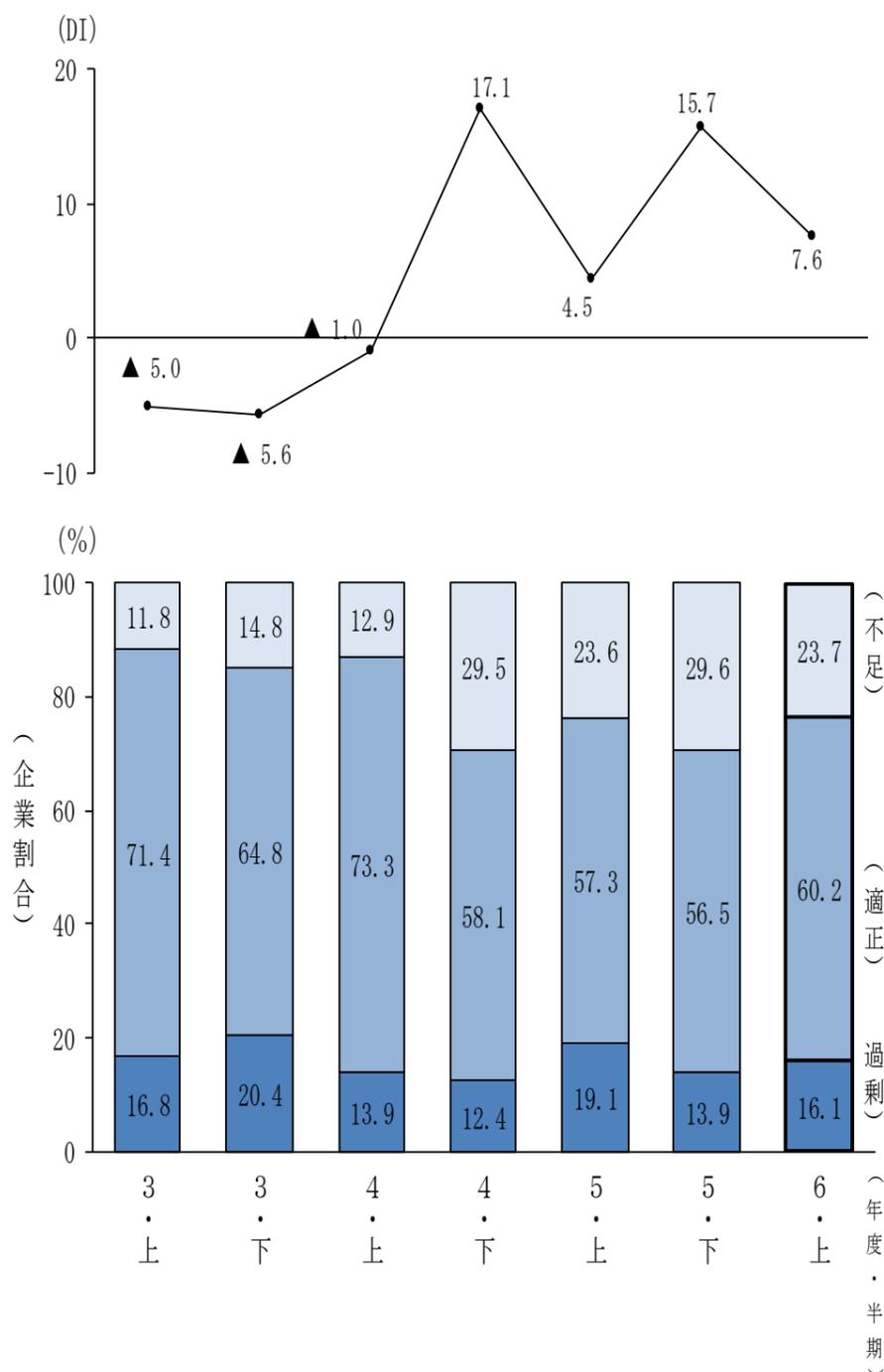
②業種別(6年度上半期)



(注) DIは、「容易になった」企業割合－「難しくなった」企業割合

8.雇用状況

図-8 雇用状況
①全業種計



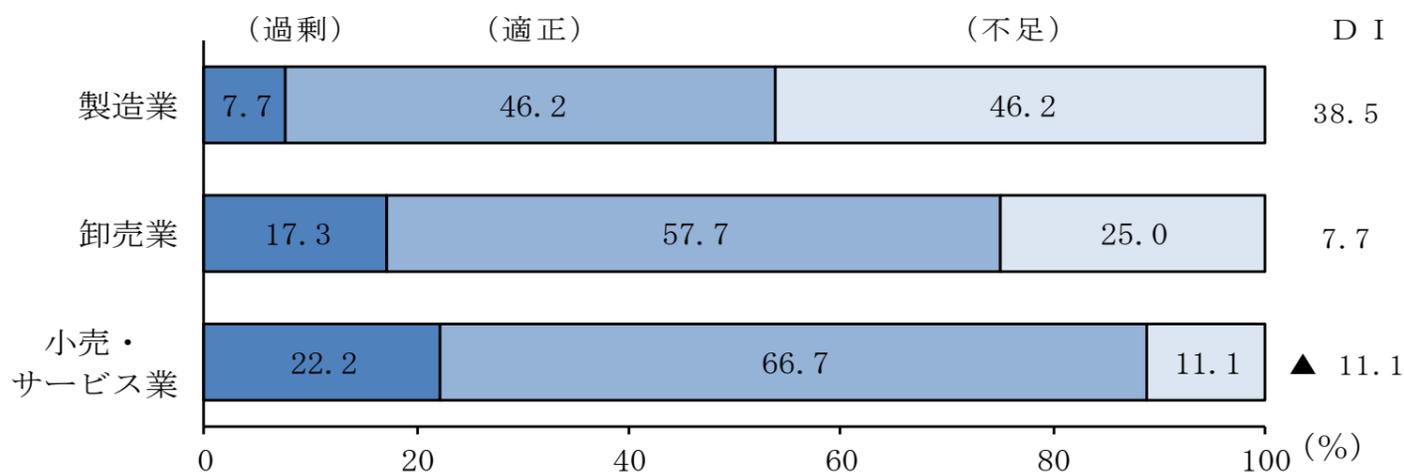
雇用DI（「不足」企業割合－「過剰」企業割合）は7.6となり、前期

（15.7）から低下しました。内訳を見ると、従業員が「不足」している企業割合は23.7%であり、調査開始以来の最高水準であった前期（29.6%）から低下しました。人手不足感は高水準ながら、やや一服しているように思われます。ただし、一部の企業では人手不足が業績向上の制約になっていると思われます（図-13【参考】参照）。

今後も、構造的な人手不足は持続することから、企業経営が圧迫されることが見込まれます。

業種別に見ると、製造業では売上DIが前期から低下（前期11.1→今期▲15.4）しているにもかかわらず、雇用DIは38.5と前期（16.6）から高まっています。

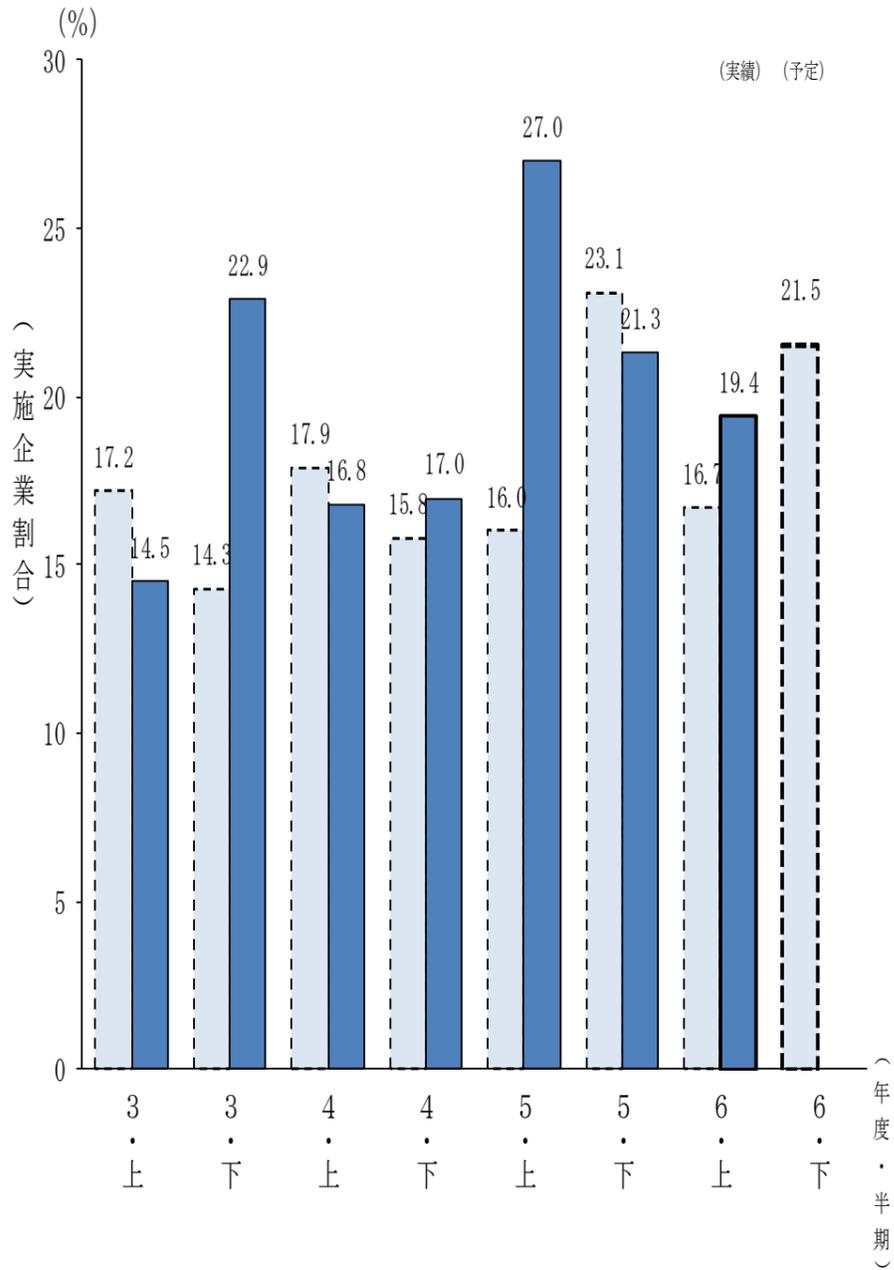
②業種別（6年度上半期）



（注）DIは、「不足」企業割合－「過剰」企業割合

9.設備投資実施状況

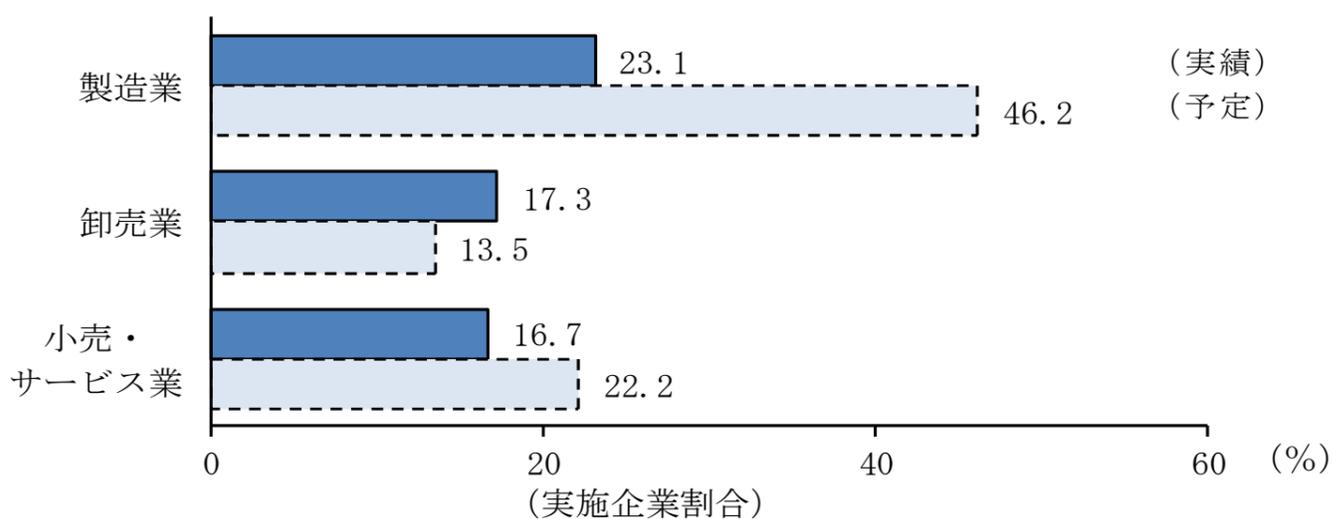
図-9 設備投資実施状況
①全業種計



今期に設備投資を実施した企業の割合は19.4%と、前期の実績(21.3%)をわずかに下回ったものの、前期に尋ねた今期の実施予定(16.7%)は上回りました。今期の業況判断は予測を下回ったものの、多くの企業が設備投資計画を予定通り実施したと考えられます。来期に設備投資を実施する予定の企業割合は21.5%であり、今期を上回る見込みです。

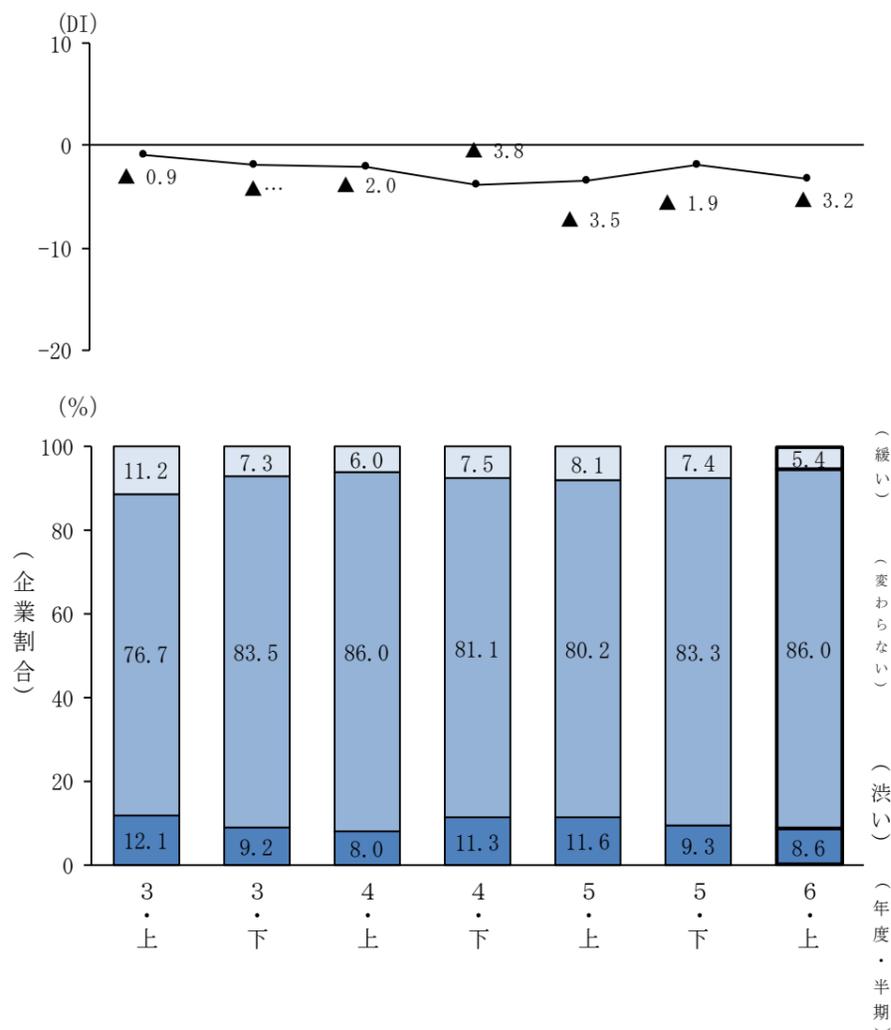
業種別に見ると、卸売業は前期に尋ねた今期の実施予定が12.1%であるのに対して今期の実績値は17.3%であり、予定外の設備投資を行う企業がありました。逆に製造業では実績値(23.1%)が予測値(33.3%)を下回っており、計画を中止した企業が存在します。

②業種別(6年度上半期実績、6年度下半期予定)



10.金融機関の貸出態度

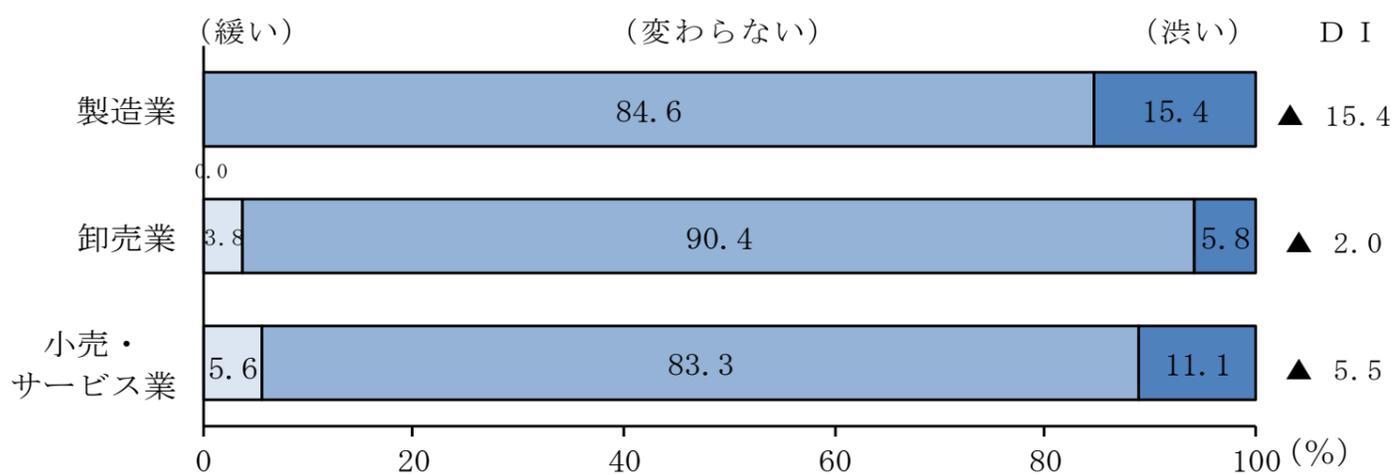
図-10 金融機関の貸出態度
①全業種計



金融機関の貸出態度D I（「緩い」企業割合－「渋い」企業割合）は▲3.2と、前期（▲1.9）とほぼ同水準でした。貸出態度D Iはコロナ禍以降、同水準圏内を上がったたり下がったりしています。内訳を見ると、貸出態度が「緩い」と感じている企業割合は5.4%、「渋い」は8.6%であるのに対して、「変わらない」は86.0%にのびります。金融機関の貸出態度はおおむね平時の水準にあるといえそうです。

しかしながら、マイナス金利の解除に伴う金利先高感の兆しがうかがえることから、借入状況とともに、今後の貸出態度に注視する必要があります。

②業種別(6年度上半期)



(注) DIは、「緩い」企業割合－「渋い」企業割合

(参考) 業況判断D I (長期時系列)

図-11 業況判断DI(長期時系列) (全業種計)

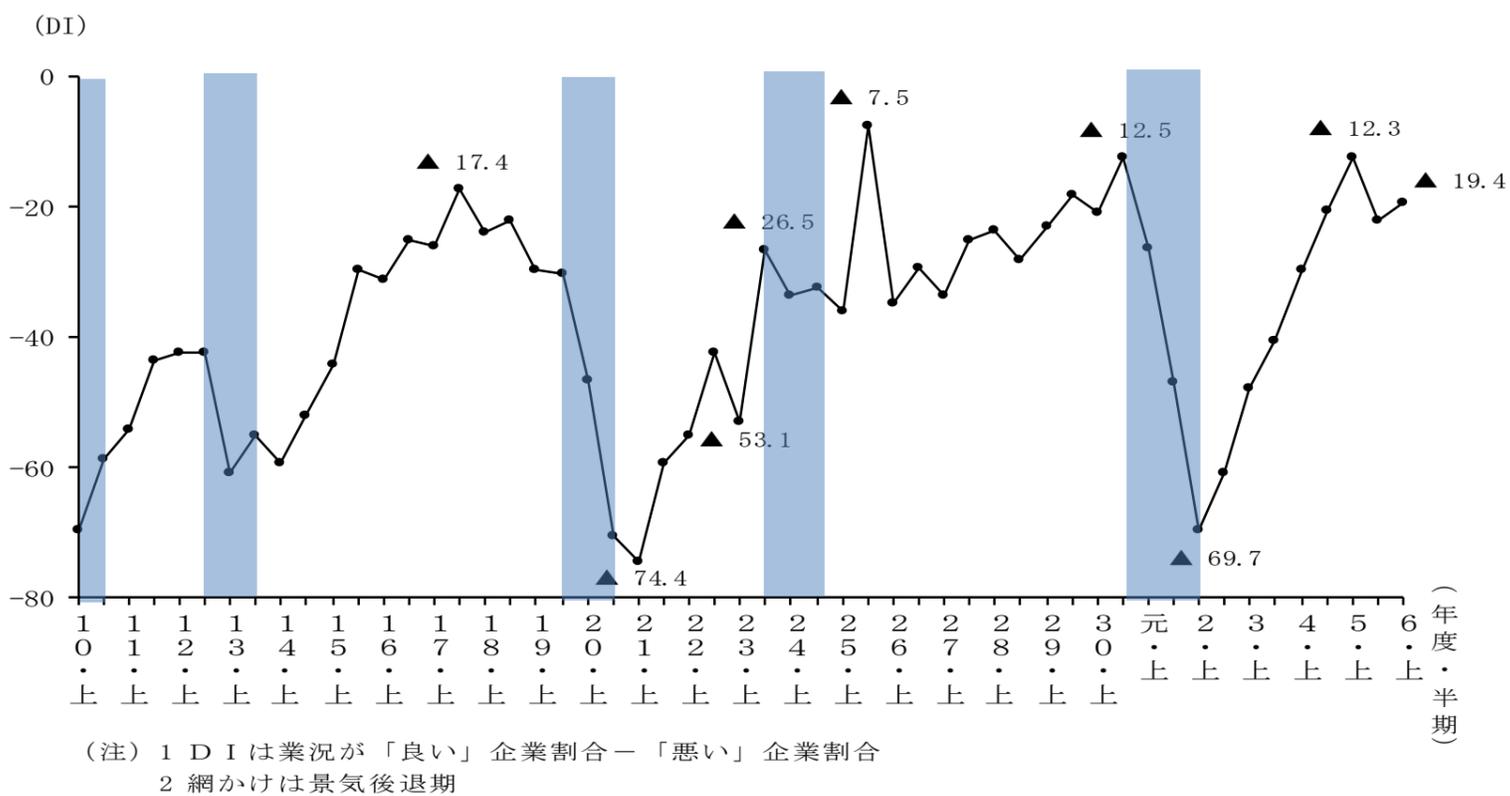


図-12 業況判断DI(従業員規模別) 6年度上半期

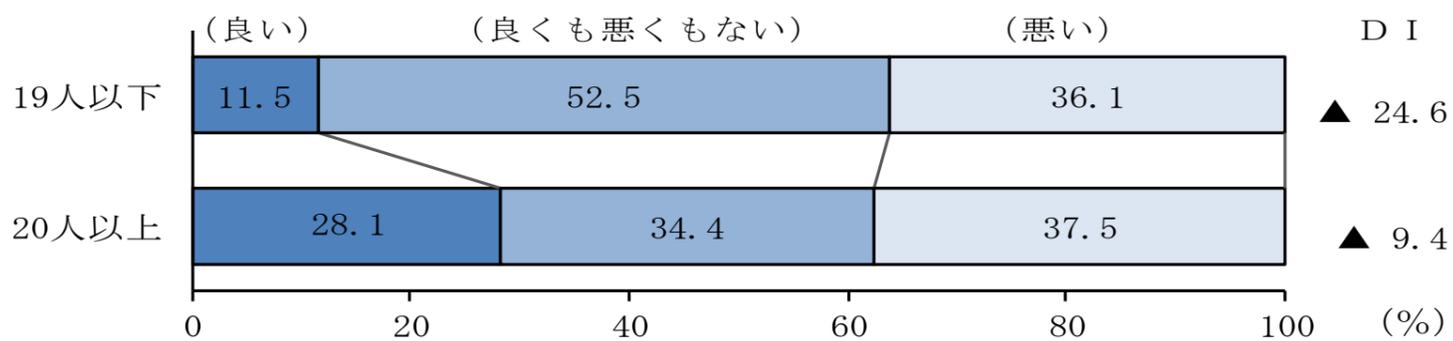
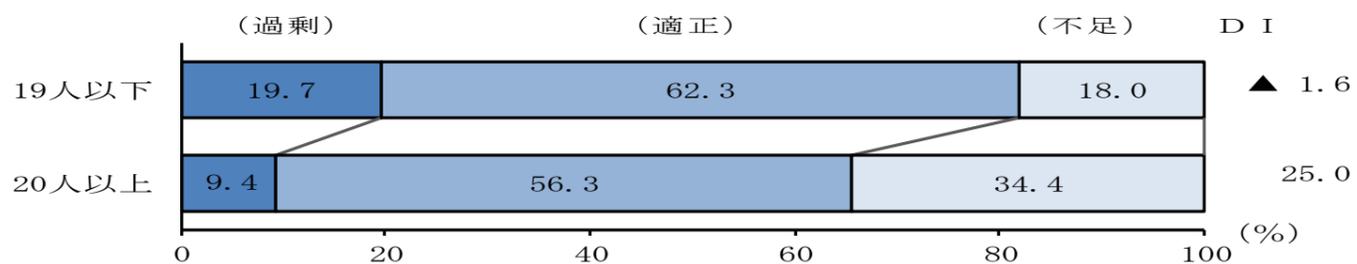
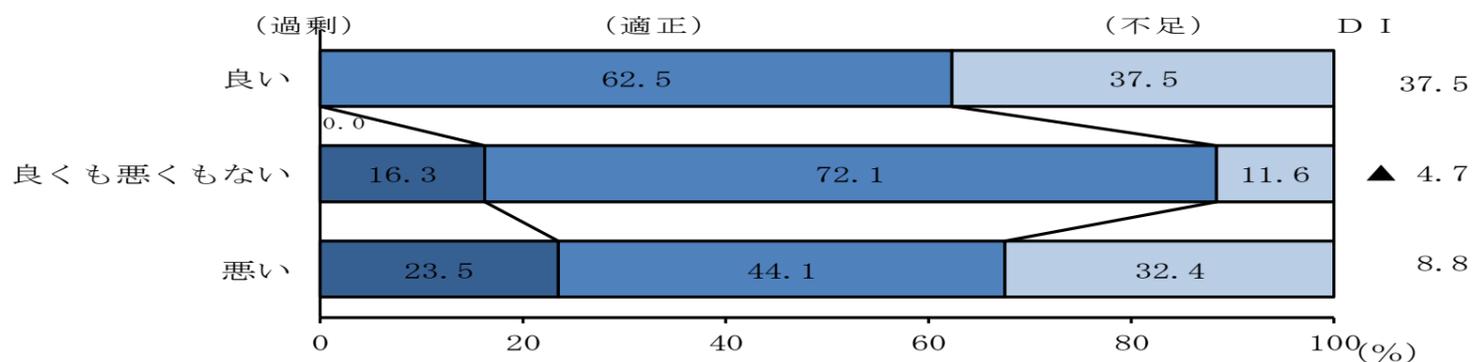


図-13 雇用状況(従業員規模別) 6年度上半期



【参考】業況判断別



(参考) 長期時系列および従業員規模別に見た指標

「業況判断DI」(業況が「良い」と回答した企業割合－「悪い」と回答した企業割合)は、回答企業の景況感を総合的に示す指標です。

図-11 はその長期的な推移を示しています。景気後退期(網かけした期間)には業況判断DIは低下し、景気拡張期には上昇するという傾向がおおむね見られます。平成30年度下半期の景気の山から業況判断DIは低下し、景気後退期となりました。そして、令和元年度上半期以降はコロナ禍の発生と深刻化に伴い、2年度上半期まで急速に落下しています。そして2年度上半期を景気の谷として、再び景気拡張期が始まりました。しかし5年度下半期には、7半期ぶりに業況判断DIは低下に転じ、6年度上半期はほぼ足踏み状態です。

図-12 は、今期の業況判断DIを従業員規模別に見たものです。19人以下の企業の業況判断DIは▲24.6(前期▲26.2)、20人以上の企業は▲9.4(前期▲16.3)です。いずれも前期よりも上昇していますが、20人以上の企業ではその上昇幅が大きく、その結果、今期の業況判断DIがわずかに改善したといえます。

図-13 は、今期の雇用状況を従業員規模別に見たものです。19人以下の企業の雇用DIは▲1.6(前期4.6)、20人以上の企業は25.0(前期32.6)です。20人以上の企業では人手不足感が依然として高水準です。

【参考】は、今期の業況判断別に雇用状況を見たものです。業況判断が「良い」企業では雇用が「不足」していると回答した企業割合が高い(37.5%)のは、当然のことです。その結果、雇用DIは37.5と高水準です。一方、業況判断が「悪い」企業では雇用DIは8.8にすぎませんが、雇用が「不足」していると回答した企業割合は32.4%と高水準です。雇用が不足していることから業績が悪い、つまり人手不足が業績向上の制約となっている企業は一定割合存在するといえるでしょう。

11. 自由意見 (抜粋)

- ・ 円高を見越して販売価格の引き下げ圧力の兆しがある。
- ・ コロナ前に戻らない。
- ・ 今後仕入先の値上げが想定され、販売価格への転嫁が売上や利益に大きく影響するものと思われます。
- ・ 物の価格が上昇しており、売上を引き下げている。ホテル代、公共料金等の全てにおいて厳しい。
- ・ 人件費等のコスト問題もさることながら、物理的な面での工面(人員や時間)が今年に入ってから一層難しくなった。
- ・ 全体的に見通しが明確でない。
- ・ ガソリンを始めとする資材の価格が高騰し、人件費の値上げで利益が圧迫され、大変厳しい状況である。
- ・ 販売先が買わなくなった

調査結果やお寄せいただきましたご意見などを、今後の連合会の運営などに役立てたいと考えています。